

地震が起きたら



津波についての予備知識

津波のしくみ

海底で発生した地震に伴う海底の隆起・沈降、地すべりなどが原因で、海水が陸地に押し寄せる現象を「津波」といいます。津波は地震だけではなく、海底での地崩れや海底火山の噴火などによっても引き起こされる場合があります。



- 気象庁が発表する「津波の高さ」とは、津波がない場合の潮位から、津波によって海面が上昇したその高さの差をいいます。
- 津波の高さは、海岸や湾の地形によって予想された数倍に達することがあります。
- 津波が陸地を駆け上がることを遡上といいます。この高さを「遡上高」といい、津波が到達した最も高い地点の標高を「最大遡上高」といいます。

津波注意報・警報の種類

	予想される津波の高さ		
	数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現	
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨 大	
	10m (5m<高さ≤10m)		
	5m (3m<高さ≤5m)		
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高 い	
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	

津波の注意点

津波は繰り返しくる!

津波は2波、3波と繰り返し襲ってきます。注意報・警報が解除されるまでは避難していきましょう。

津波のスピードは速い!

「注意報」や「警報」が出る前にも津波もあり、津波の速度は海岸付近でも時速36km(秒速10m)程度もあります。

津波の高さに注意!

海岸の地形などによって予想された津波の高さを超える津波が発生する場合があります。

引き潮がなくても注意!

津波の前に必ず引き潮があるとは限りません。地震の起こり方や地形によっては引き潮が起らない場合もあります。

満潮時は要注意!

満潮時は水位が高くなっているので、津波がより大きくなります。

弱い地震でも要注意!

弱い地震でも揺れが長く続いた時などは津波が襲ってくる可能性があります。

地震が起きた際の初期行動

屋内では

- テーブルや机の下に入る。
- 座布団や雑誌などで頭を保護する。
- 窓や鏡などのガラスから離れる。
- 家具から離れる。
- 商業施設や公共施設などでは係員の指示に従う。

火元の点検

コンロやガス器具、ストーブ、タバコなどの火元を消し、火事などの二次災害を防ぎましょう。

脱出口の確保

建物の傾きによって閉じ込められないよう玄関や窓を開け、脱出口を確保しましょう。

屋外では

- ブロック塀などの倒壊に注意する。
- 看板・ガラスなどの落下物に注意する。
- 海のそばで揺れを感じたら、揺れの大きさに関わらず速やかにその場から離れ、高台へ避難する。

状況確認

ガラス片や転倒家具などに注意し、家族や周りの人の安全確認・確保を行いましょう。

情報を入手する

テレビやラジオ、緊急速報メールなどで災害情報、避難情報を入手しましょう。